

## 5. 本明川の整備

本明川は河川整備とダムにより、昭和32年7月の諫早大水害規模の流量（基準地点裏山1,070m<sup>3</sup>/s）を安全に流せるようにする計画です。

河川整備は大きく3つ行っています。

①河道掘削（かどうくっさく）…多くの水を流せるように川底を掘ることに

よって、洪水時の水位を低下させます。

②引堤（ひきてい）…多くの水を流せるように堤防を左右に広げることによ

って、洪水時の水位を低下させます。

③橋梁架替（きょうりょうかけかえ）…多くの水を流せるように、短い橋を

長い橋に架け替えることによって、川

幅を広げ水位を低下させます。

また、水面から橋梁までの高さを確保し、流木等をスムーズに流せるように整備を進めています。

写真や図を併せてより詳細に解説しておりますので、以下のパネルをご覧ください。

# 本明川の河川整備

【本明川河川整備の基本的な考え方】

本明川の河川改修(引堤、河道掘削等)とダムにより、昭和32年7月の諫早大水害規模の流量を安全に流せるように整備を進めています。

※(基準地点裏山 1,070m<sup>3</sup>/s)

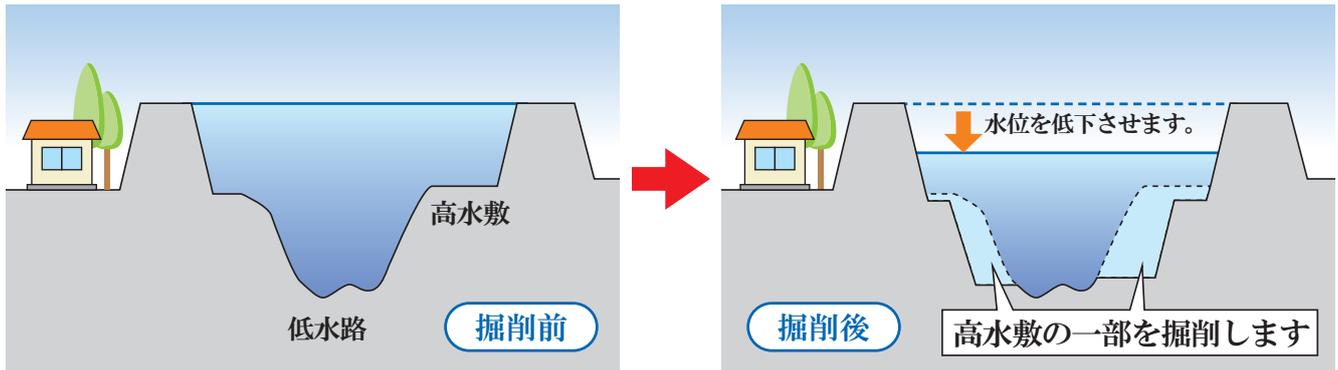
■平成17年度以降進めている整備内容



# 本明川の整備内容と効果①

## か どう くっ さく ■ 河道掘削

流水を流下させる部分を河道と呼びます。河道は通常時に水が流れている低水路と、洪水の時だけ流れる高水敷に分けられます。この河道内を掘削し、河川の断面積を広げることを河道掘削といいます。これにより洪水時における水位の低下を図ります。



## ■ 本明川中流部での整備



## 整備の効果

掘削により、河川の断面積を広げることで、洪水時の水位を低下させます。

# 本明川の整備内容と効果②

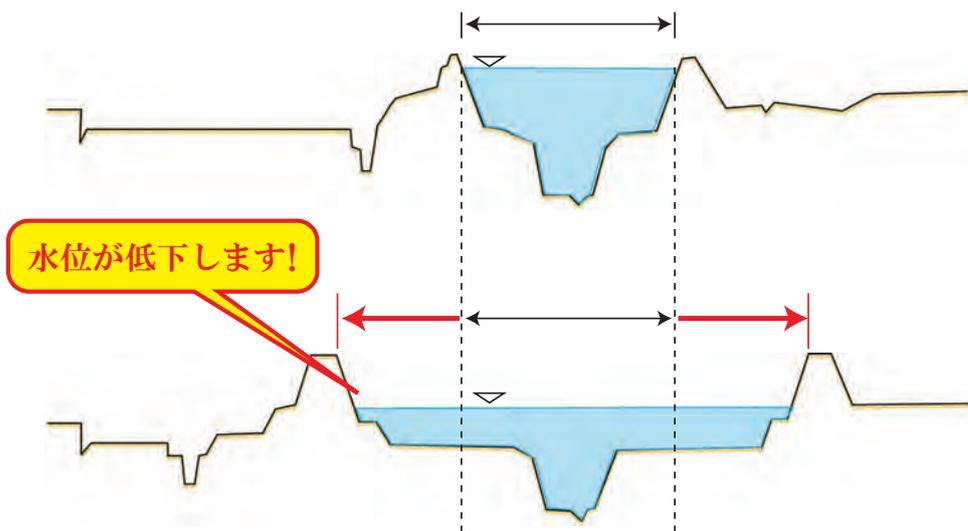
## ひき てい ■引堤

たくさん水を流せるように、堤防(川幅)を左右に拡げることが引堤といえます。  
これにより洪水時における水位の低下を図ります。

川幅を拡げる前



川幅を拡げた後

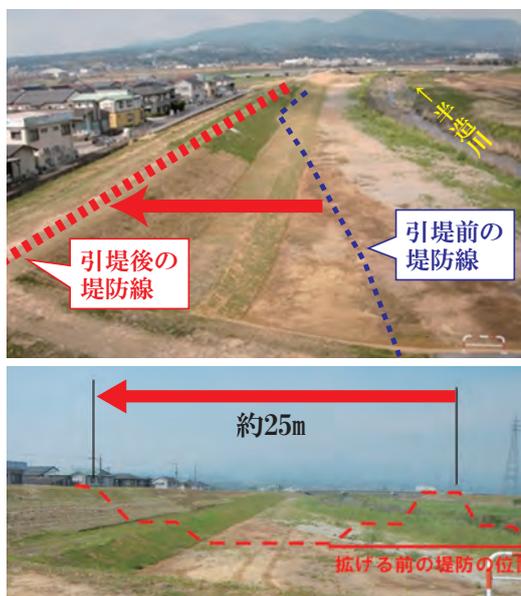


### ■半造川での整備

整備前



整備後



### 整備の効果

堤防を川裏(住宅や田畑)側に引くことにより、  
川幅を広げ洪水時の水位を低下させます。

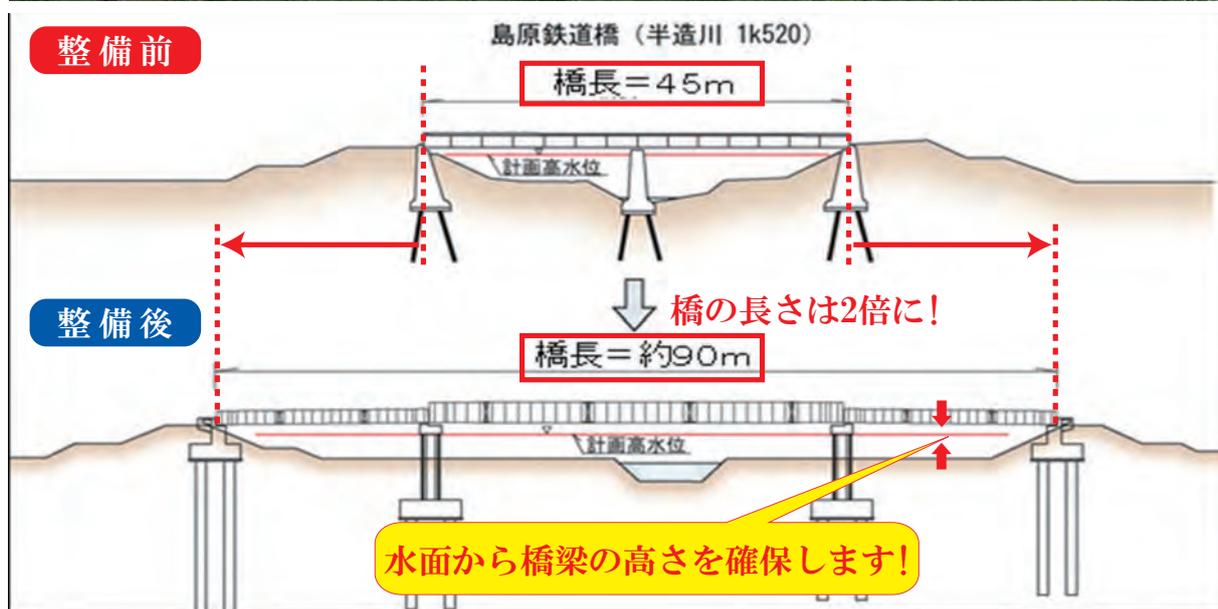
# 本明川の整備内容と効果③

きょうりょう かけ かえ

## ■橋梁架替

引堤に伴い、川幅が広がるため、短い橋を長い橋に架け替えます。  
これにより洪水時における水位の低下を図ります。

### ■半造川での整備



## 整備の効果

引堤と併せて橋梁を架け替える事により、河川の断面積を広げることで、洪水時の水位を低下させます。

## これまでの河川整備により 本明川の治水安全度は向上しました。

■昭和32年(諫早大水害直後)



■平成27年



しかし河川整備には長い期間がかかります。  
今、ふたたび「諫早大水害」と同規模の洪水  
が起こった場合、氾濫の恐れがあります。

# これからは、みなさんが より安全に避難できるように していきます。

## ■事前防災行動計画「水害タイムライン」とは？

水害タイムラインとは、防災関係機関が連携し、住民のみなさんの命を守るために、「いつ」、「誰が」、「何をするのか」をあらかじめ時系列で整理した事前防災行動計画のこと。

### 水害タイムライン（事前防災行動計画）の連携イメージ



- ・令和3年5月28日 諫早市、長崎河川国道事務所、長崎県県央振興局、長崎地方気象台にて「本明川水害タイムラインに基づく意思決定グループ連携に関する協定」を締結。
- ・今後は、流域全体へ拡大していくとともに、流域全体での治水対策「流域治水」にも取り組んで参ります。